気仙沼通信【第２回】　　130312

上　田　　勉

「東日本大震災きょう２年　犠牲関連死含め２万人超　避難生活なお 31 万人」
（「河北新報」３月 11 日朝刊１面の見出し）

３月 11 日は気仙沼市にとっても特別な１日でした。朝総務課へ行ったら、職員はほとんどいません。皆な追悼式の準備で忙しいとのことです。

午後２時 46 分、防災無線がサイレンを鳴らしました。ほとんどの人達が、海岸の方に向かって黙とうをしました。漁港の工事現場でも、職員や作業員の人達が、桟橋に整列をして、献花をして黙とうをしました。私は、市役所の中にいましたが、「被災者の人達のために、なお一層復興にために頑張らなければ」と決意を新たにしました。

市役所を出るのは、いつもだいたい午後７時 30 分頃ですが（区役所の時は午後５時 20 分でした)、この日は午後６時に出て、追悼式が行われた私立体育館へ行きました。私達が献花した後に、報道関係とみられる一団が慌ただしく入ってきました。私はよもやインタビューをされるのかと思い、一瞬覚悟をしましたが、その後から女の子達５人が来て、献花をして、直ぐに報道陣と一緒に会場を去りました。

翌日､隣りにいる広島県江田島市から派遣で来ている S さんに､そのことを話したら、そのグループは AKB48 のメンバーとのこと。「上田さん、何で AKB48 の写真を撮らなかったのですか」と責められました。（私は追っかけではなく、追悼式へ行ったのです)

その S さんにはいつもお世話になっています。現場へ行く時は、いつも一緒に行ってくれます。（私の運転が不安なのか？まるで赤川さんのような人です。)。また、私は市役所の文書管理システムがなかなか覚えられず､いつも S さんのお世話になっています。その代わりに、仕事ではなく、鉄道の安い乗り方や東北各地の街の歩き方について S さんに伝授しています。

東京では、７年後のオリンピックの招致で盛り上がっているみたいです。「世界の人達に７年後に完全に復活した東北を見てもらいたい」という日本オリンピック委員会のアピールは、ここ被災地ではむなしく聞こえてきます。

仮設住宅の被災者の人達のアンケート結果を見ても､①家を再建しようとしている人―約４割、②復興公営住宅（終の棲家）への入居を希望する人―約４割、③残りの約２割の人達は比較的若い人達で、仕事のために市外への移転を希望しています。復興が遅れれば遅れるほど、①の人達が減って、②と③の人達が増えます。

また、今回の津波で被災した災害危険区域には、家（住居）を建てることができません。街は復興しても、多くの人達は自分の土地に戻れない・戻らない、これが被災地の７年後の姿にならないように願います。

日本でも有数な海岸の景勝地である三陸、そして世界の３大漁場の１つであり、海の幸の宝庫である三陸、しかしリアス式海岸は入り江の連続で、津波の被害を最大に受けるような地形になっています。もしも神がいるとすれば、神は三陸の人達に、天の恵みと共に大きな試練を与えたのでした。

気仙沼市の追悼式の写真です

【2 月に来てくれた方】　島田・小松崎さん（葛飾区役所）
【2 月に忙殺される仕事の合間に行った場所】　南三陸町・石巻・塩釜・陸前高田・大船渡・大槌町・鳴子温泉・銀山温泉・山形